

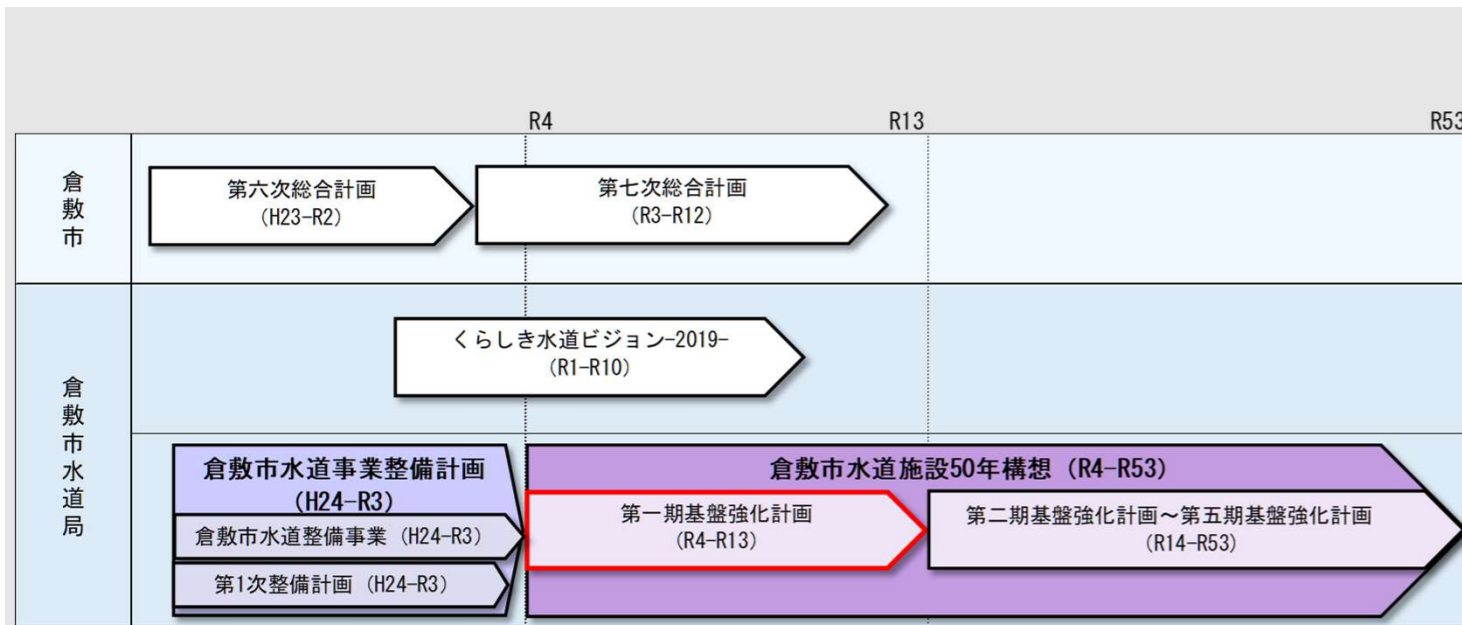
# 倉敷市水道施設第一期基盤強化計画 概要版

## 50年構想とは

本市水道事業では、今までに整備した水道施設の多くが老朽化し、今後、維持管理や更新に多額の事業費が必要になると想定されています。その中で「倉敷市水道施設50年構想」は、将来にわたる水道水の安定供給のため、これまで実施してきた老朽化対策に加え、今後の水需要の減少を見据えた施設の統廃合や、ダウンサイジングによる水道施設の再構築、及び自然災害に対する水道施設の強化について、令和4年から令和53年の50年間にわたる基本方針を示すものです。

## 第一期基盤強化計画の位置づけ

基盤強化計画は、上記『倉敷市水道施設50年構想』で検討された中長期的な基本構想に基づく、整備内容を10年間区切りで抽出した計画です。その中で、今回策定した基盤強化計画は、直近10年(令和4年度～令和13年度)で整備すべき内容を示した『倉敷市水道施設第一期基盤強化計画』にあたります。なお、「50年構想」「第一期基盤強化計画」のいずれにおいても、国の方針である改正水道法や防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策を考慮したものとします。



【国】改正水道法 (R1)

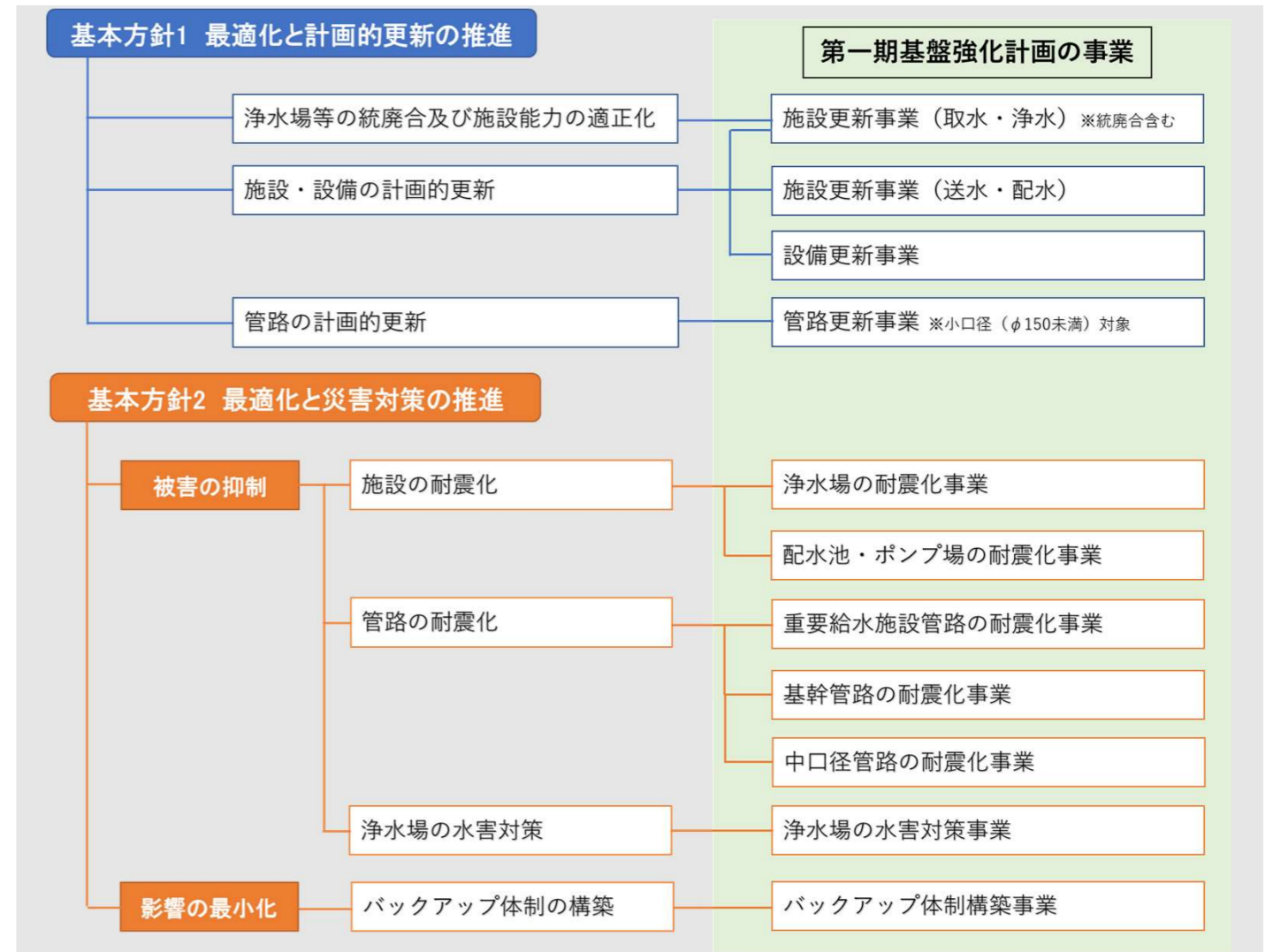
【国】防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策 (R2)

R4～R13 2022～2031	R14～R23 2032～2041	R24～R33 2042～2051	R34～R43 2052～2061	R44～R53 2062～2071
第一期 基盤強化計画	第二期 基盤強化計画	第三期 基盤強化計画	第四期 基盤強化計画	第五期 基盤強化計画

## 第一期基盤強化計画の事業区分

50年構想では、本市水道事業が抱える3つの課題「課題1 人口減少による水需要減少」「課題2 増え続ける老朽化資産」「課題3 激甚化する自然災害」を解決するために2つの基本方針『基本方針1 最適化と計画的な更新』および『基本方針2 最適化と災害対策の推進』を掲げました。

この2つの基本方針を実現するため、前者においては、浄水場等を統廃合、施設能力を適正化するとともに、計画的に施設、整備、管路の更新に取り組み、後者においては、被害の抑制と影響の最小化に焦点をあて、耐震化、水害対策を実施するとともに、バックアップ体制の構築を目指すこととし、事業体系を作成しました。第一期基盤強化計画では、その事業体系に対して以下の事業区分を設けて事業を実施します。



## 第一期基盤強化計画の目標設定

本基盤強化計画の目標値と目標設定を以下に示します。一部の指標でビジョンの目標値(目標年度:令和10年度)を満足しないこととなりますが、これは上成浄水場の統合更新が第二期基盤強化計画での完了となったためであり、同整備が完了するとビジョンの目標値も達成することとなります。

指標	R3末現在	第一期基盤強化計画目標値 (R4～R13)		ビジョン目標値 (R10)	国土強靭化目標値 (R7/R10) ※
		(R10)	(R13)		
浄水施設の耐震化率	27.2%	50%	56%	100%	41%
ポンプ所の耐震化率	51.3%	71%	71%	80%	-
配水池の耐震化率	60.7%	87%	88%	70%	70%
基幹管路の耐震適合率	41.5%	60%	64%	55%	60%
重要給水施設配水管路の耐震適合率	43.1%	72%	73%	55%	-
管路の耐震適合率	22.8%	28%	30%	30%	-
浸水対策浄水施設数	0箇所	1箇所	1箇所	2箇所	-

※基幹管路の耐震適合率のみ令和10年度

# 基盤強化計画による効果等

## 指標値の推移

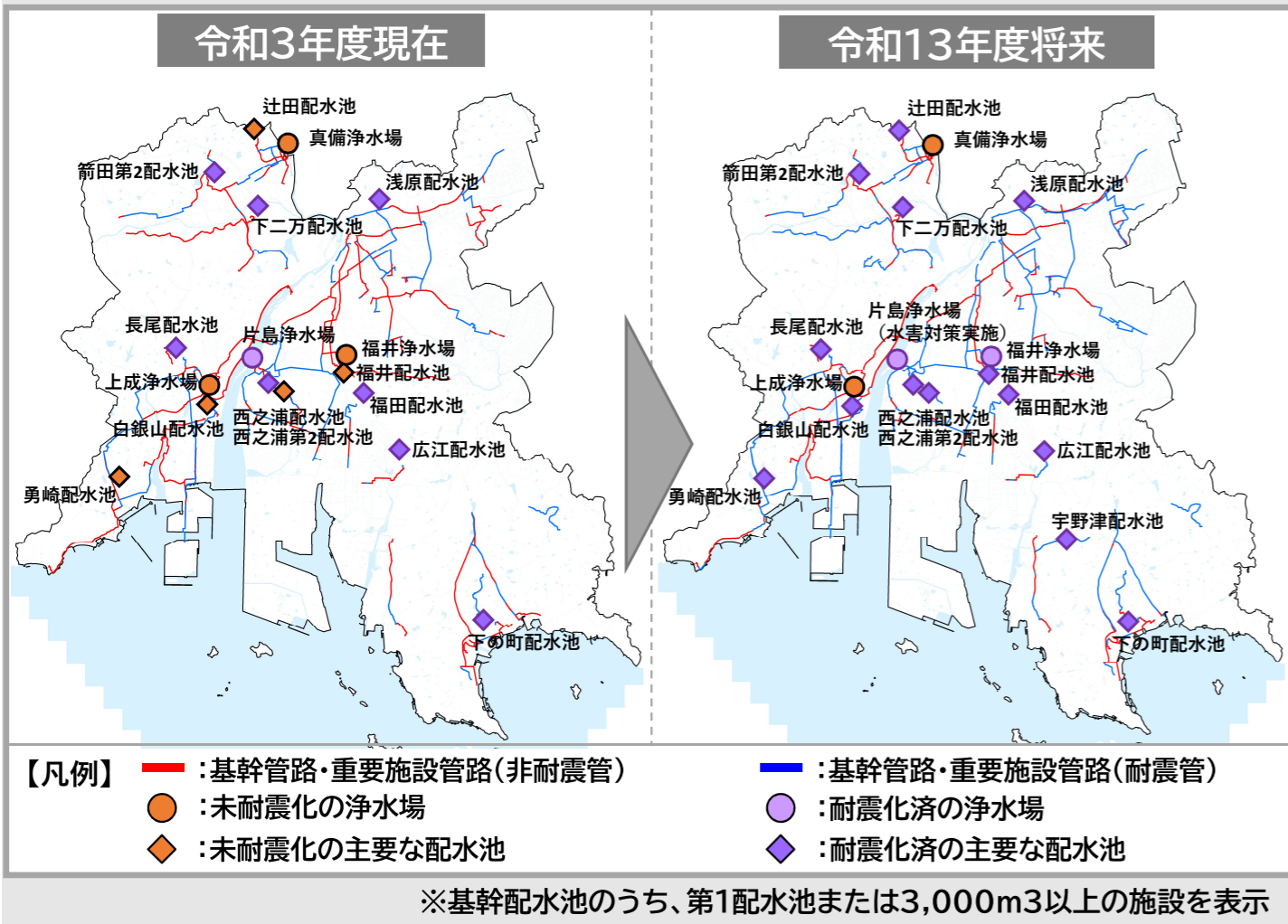
本基盤強化計画の指標値の年毎の推移の予測を以下に示します。

【指標値の推移予測】

指標	R3末現在	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
浄水施設の耐震化率	27.2%	27%	27%	27%	27%	50%	50%	50%	50%	50%	56%
ポンプ所の耐震化率	51.3%	65%	65%	65%	65%	71%	71%	71%	71%	71%	71%
配水池の耐震化率	60.7%	61%	61%	69%	69%	73%	82%	87%	87%	88%	88%
基幹管路の耐震適合率	41.5%	42%	45%	48%	51%	54%	57%	60%	61%	63%	64%
重要給水施設配水管路の耐震適合率	44.7%	53%	54%	57%	59%	63%	67%	72%	72%	72%	73%
管路の耐震適合率	22.8%	23%	23%	24%	25%	26%	27%	28%	28%	29%	30%
浸水対策浄水施設数	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1

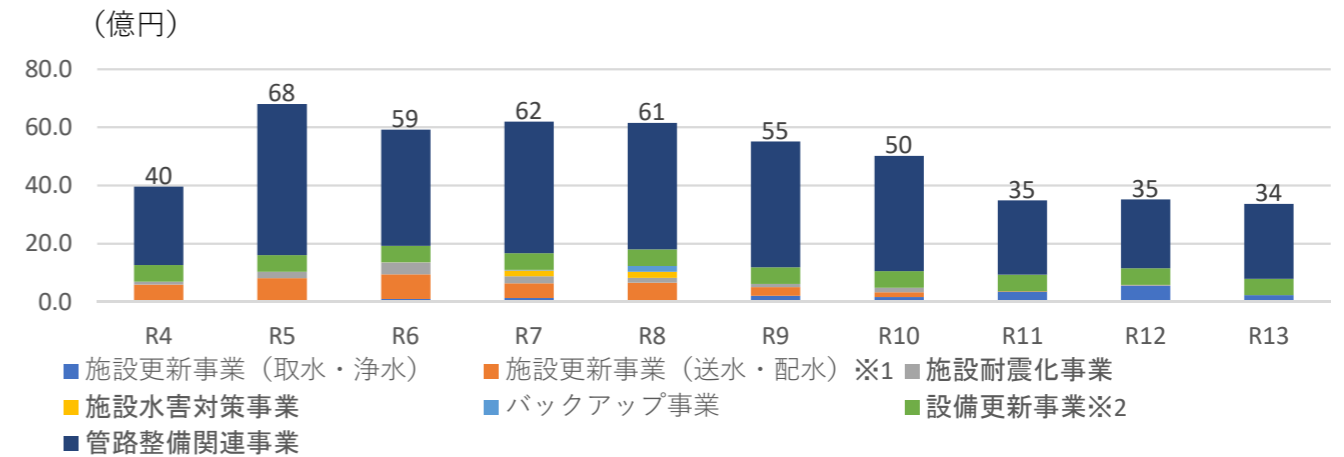
## 第一期基盤強化計画図

第一期基盤強化計画を推進することで、10年間で以下図のように施設・管路の耐震化状況が改善されます。



## 事業内容

整備費用の見込みを以下に示します。第一期基盤強化計画の期間で約499億円の整備となります。



※1:一部施設整備に合わせた管路整備含む  
 ※2:10年間の更新需要の平均値を計上

管路に係る事業は「管路更新事業」、「重要給水施設管路の耐震化事業」、「基幹管路の耐震化事業」、「中口径管路の耐震化事業」の4つに区分しています。各年度の整備延長・整備費用を以下に示し、対象管路を次頁に示します。

管路事業量	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	合計
管路整備延長(km)	25.7	32.6	27.0	31.0	31.5	34.5	30.9	24.7	26.5	28.5	292.9
管路整備概算費用(億円税込)	27.1	52.0	40.0	45.3	43.5	43.3	39.7	25.5	23.6	25.8	365.8

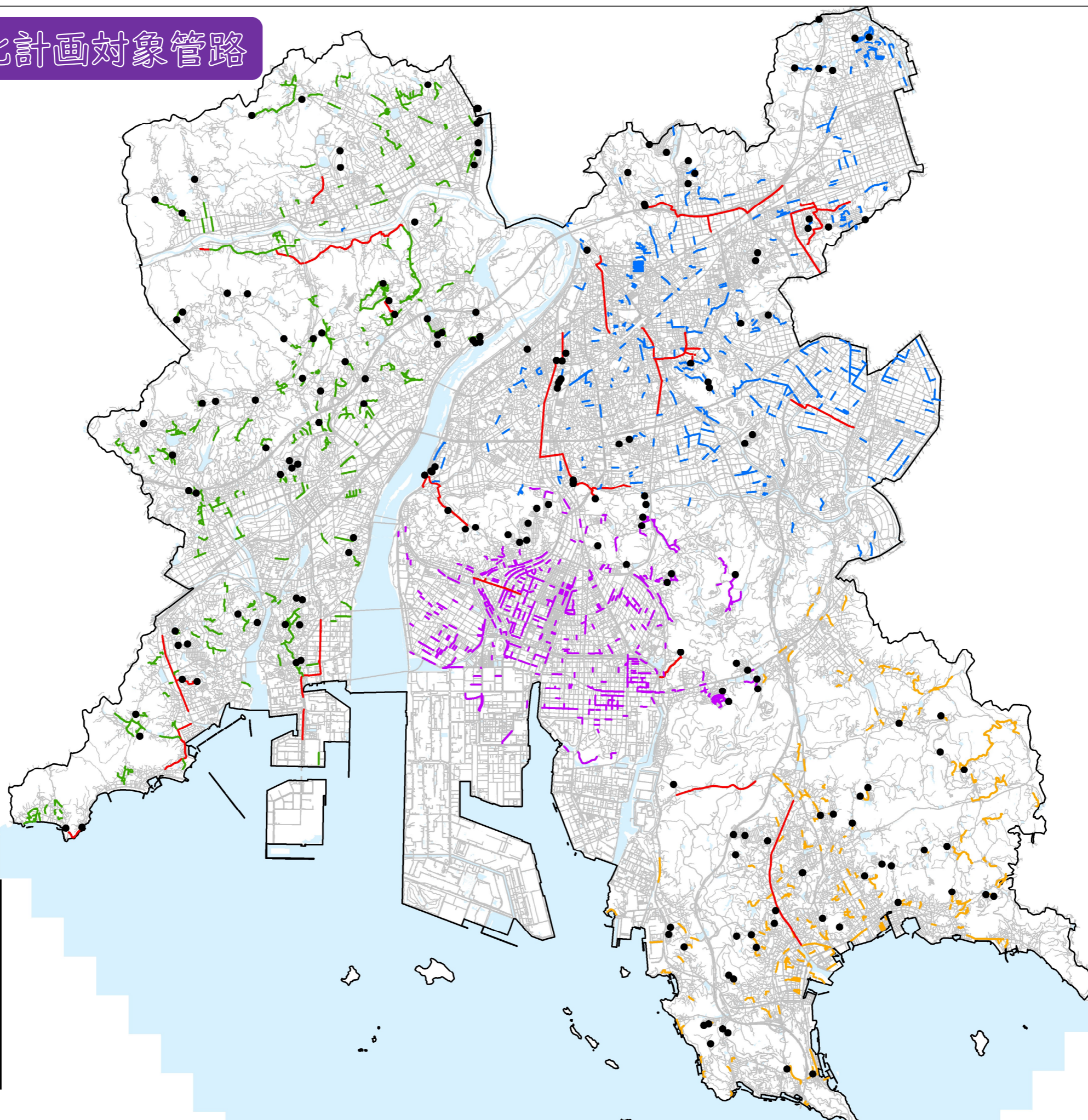
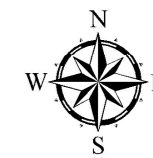
## 全体計画内訳

事業ごとの内訳を以下表に示します。

計画全体合計	基本方針区分	事業中区分	事業小区分
第一期基盤強化計画(R4~R13)  施設 126施設 管路 293km 計画規模合計:499.3億円	基本方針1 最適化と計画的更新の推進	浄水場等の統廃合及び施設能力の適正化	施設更新事業(取水・浄水)
		施設 2施設	施設 2施設
		施設・設備の計画的更新	施設更新事業(送水・配水)
		施設 124施設	施設 24施設
	基本方針2 最適化と災害対策の推進	設備更新事業	設備更新事業
		施設 119施設	施設 119施設
		管路の計画的更新	管路更新事業
		管路 202km	管路 202km
		施設の耐震化	浄水場の耐震化事業
		施設 7施設	施設 1施設
施設 10施設 管路 91km	管路の耐震化	配水池・ポンプ場の耐震化事業	
	施設 6施設	施設 6施設	
	基幹管路の耐震化事業	基幹管路の耐震化事業	
	管路 14km	管路 14km	
※管路によっては基幹管路と重要給水施設管路は重複する 場合があるため、小区分の合計値とはならない。	重要給水施設管路の耐震化事業	重要給水施設管路の耐震化事業	
	管路 55km	管路 55km	
	中口径管路の耐震化事業	中口径管路の耐震化事業	
	管路 34km	管路 34km	
浄水場の水害対策	浄水場の水害対策事業		
施設 1施設	施設 1施設		
バックアップ体制構築	バックアップ体制構築事業		
施設 3施設	施設 3施設		

# 基盤強化計画による効果等

## 第一期基盤強化計画対象管路



- 凡例
- 担当部署
- 水道建設課
  - 水道管理課
  - 玉島営業所
  - 児島営業所
  - 水島営業所